

# 横浜市インフルエンザ流行情報 16号

横浜市衛生研究所 / 横浜市健康福祉局健康安全課

市全体で流行警報解除基準値を下回りましたが、依然として流行は続いており、引き続き注意が必要です。

## 【概況】

横浜市全体の第10週(3月5日～11日)の定点<sup>※1</sup>あたりの患者報告数は、**8.60**となり、第9週の13.48<sup>※2</sup>より減少し、流行警報解除基準値(10.00)を下回りました。流行警報は解除されますが、これは流行が終息したということではありません。依然として流行は続いており、引き続き注意が必要です。

年齢別では、15歳未満の報告は63.0%と、多くを占めています。学級閉鎖等の報告件数は減少していますが、高齢者施設や医療機関、保育園での集団発生報告は続いています。市内基幹定点<sup>※3</sup>からのインフルエンザ入院患者の報告は減少しているものの続いており、10歳未満と70歳以上の報告が多いため、重症化には引き続き注意が必要です。

迅速診断キットの結果は、第10週では**A型48.7%**、**B型51.3%**と、B型がやや多く報告されていますが、A型の割合が増加しています。

今後も引き続き、正しい手洗い<sup>※4</sup>等や、咳が出る時のマスクの着用及び早期受診などの対策<sup>※5</sup>が重要です。

※1 定点とは、定期的にインフルエンザ患者発生状況を報告していただいている医療機関(市内153か所)のことで、そこから報告された患者数の平均値が定点あたりの患者報告数です。

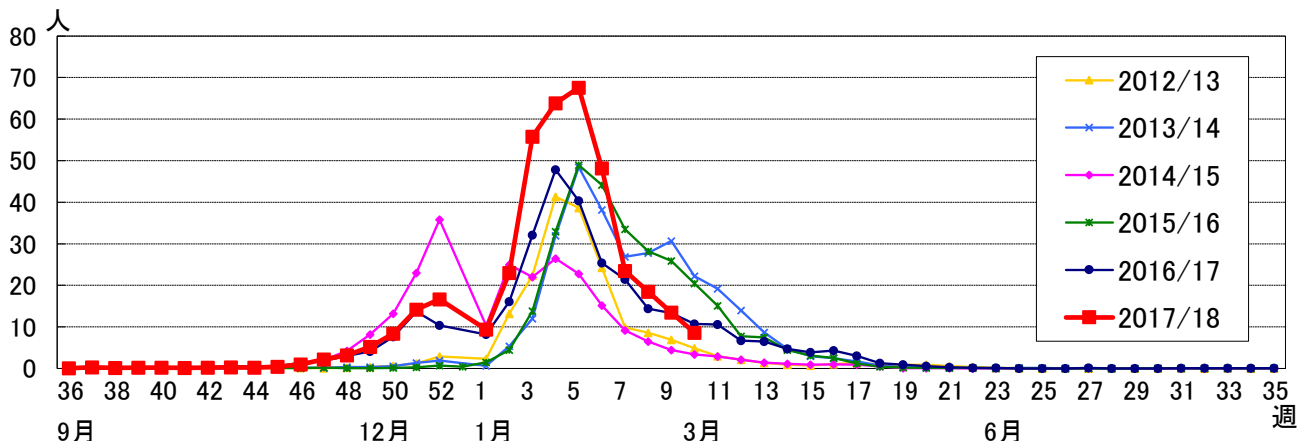
※2 追加報告があったため、以前お知らせした情報から報告数が更新されています。

※3 基幹定点:患者を300人以上収容する病院(小児科医療と内科医療を提供しているもの)の中から、地域ごとに指定された医療機関のことで、市内には4つの基幹定点があります。

※4 [横浜市保健所ホームページ](#)(「正しい手洗い方法」および、掲示用ポスター「石けんで『手』を洗おう」をトップページに掲載しておりますので、是非ご活用ください)

※5 [市民向けインフルエンザ予防チラシ\(横浜市\)](#)

**1 市内流行状況:**市全体の定点あたりの患者報告数は、2017年第51週に14.19にて注意報発令、2018年第3週に55.76にて警報発令、第5週の67.58をピークとして漸減し、第10週(3月5日～11日)で8.60となり、流行警報解除基準値(10.00)を下回りました。



## 2 地図で表した今シーズンの区別流行状況(塗り分けの数字は定点あたり報告数)

《市全体》

第 51 週 14.19

注意報発令

《市全体》

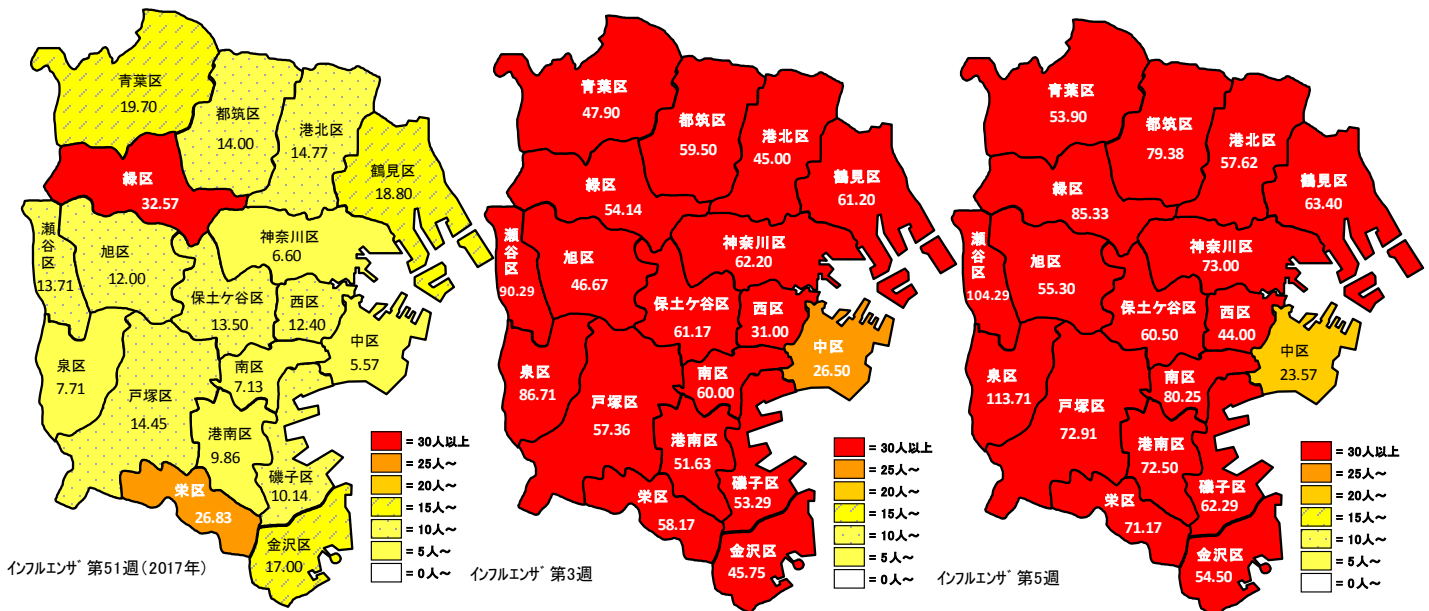
第 3 週 55.76

警報発令

《市全体》

第 5 週 67.58

報告数のピーク



《市全体》

第 8 週 18.47

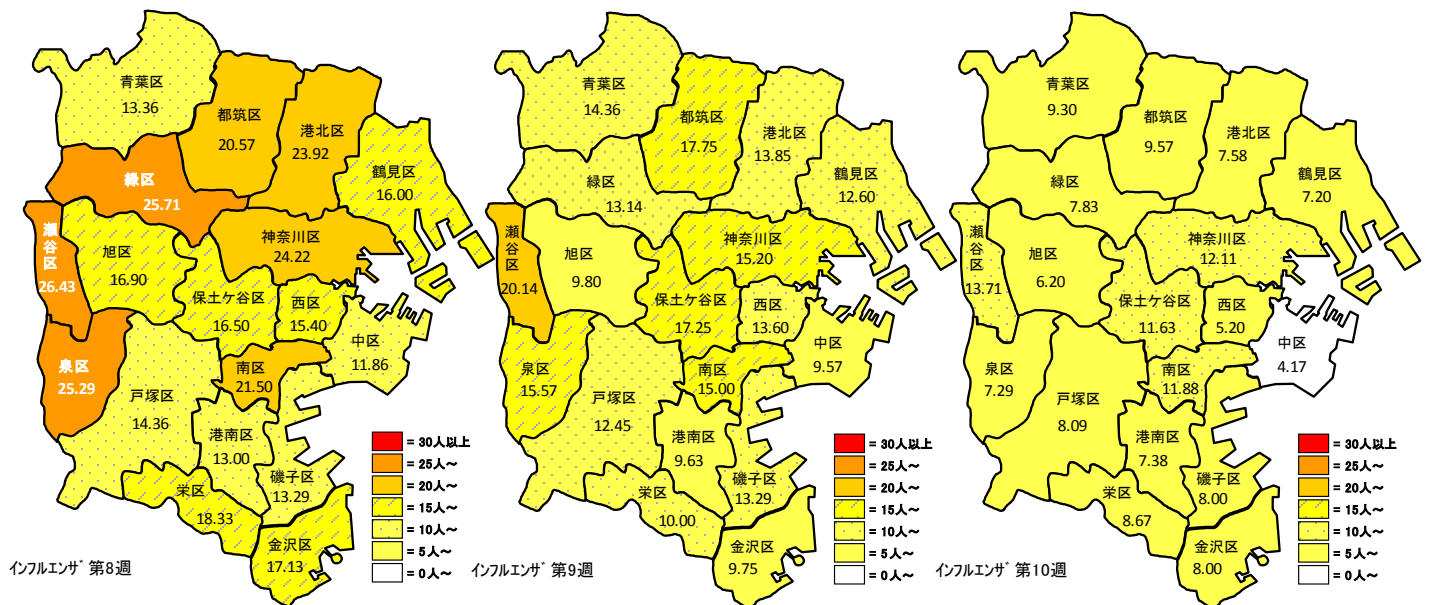
《市全体》

第 9 週 13.48<sup>※2</sup>

《市全体》

第 10 週 8.60

警報解除

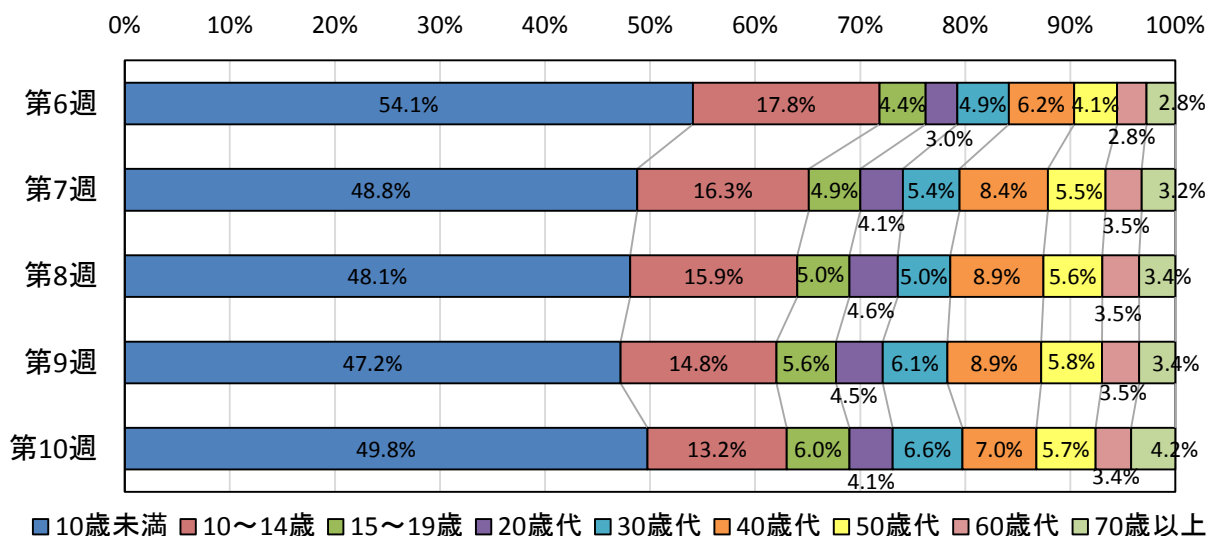


2017年第51週にて、市内全体で定点あたり10.00を超えたため、流行注意報が発令、2018年第3週にて30.00を超えたため、流行警報が発令されていました。第5週の67.58をピークとして減少し、第10週にて警報解除基準値（10.00）を下回りましたが、依然として流行は続いています。

第10週では、神奈川区、南区、保土ヶ谷区、瀬谷区で10.00を上回っています。

**3 年齢層別集計:**第 10 週の患者年齢構成は、10 歳未満が 49.8%、10 歳から 15 歳未満が 13.2%となり、15 歳未満が全体の 63.0%を占めています。第 7 週以降、15 歳未満の占める割合がわずかに減少しつつあり、成人の占める割合が増加しつつあります。

年齢層別患者割合

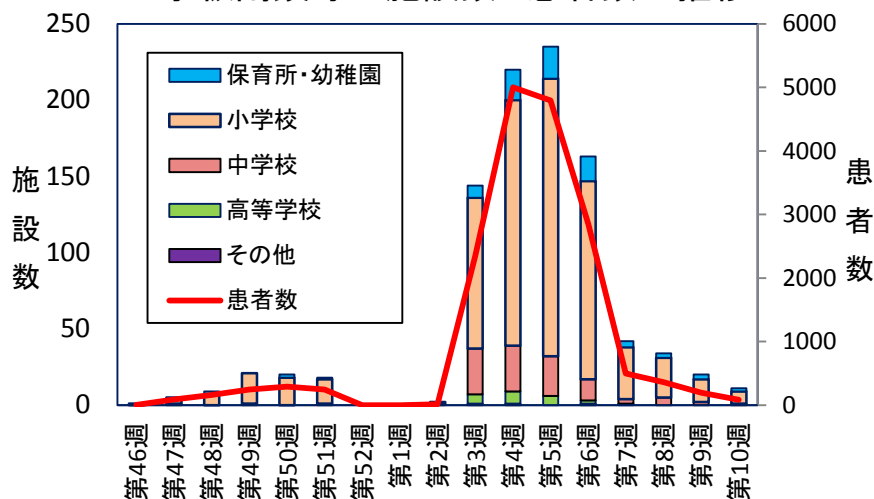


■ 10歳未満 ■ 10~14歳 ■ 15~19歳 ■ 20歳代 ■ 30歳代 ■ 40歳代 ■ 50歳代 ■ 60歳代 ■ 70歳以上

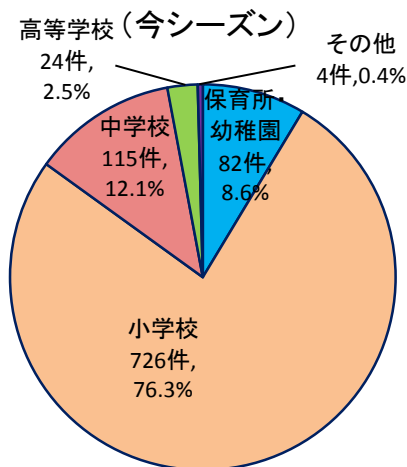
**4 市内学級閉鎖等状況:**学級閉鎖等の報告は、第 10 週で 11 件、患者報告数 85 人と、減少し続けています。内訳は、保育所・幼稚園 2 件、小学校 8 件、中学校 1 件です。

今シーズンの第 10 週までの報告は累計 951 件、患者数は延べ 17,271 人で、施設の割合は、保育所・幼稚園 8.6%、小学校 76.3%、中学校 12.1%、高等学校 2.5%、その他 0.4%となっています。

学級閉鎖等の施設数と患者数の推移



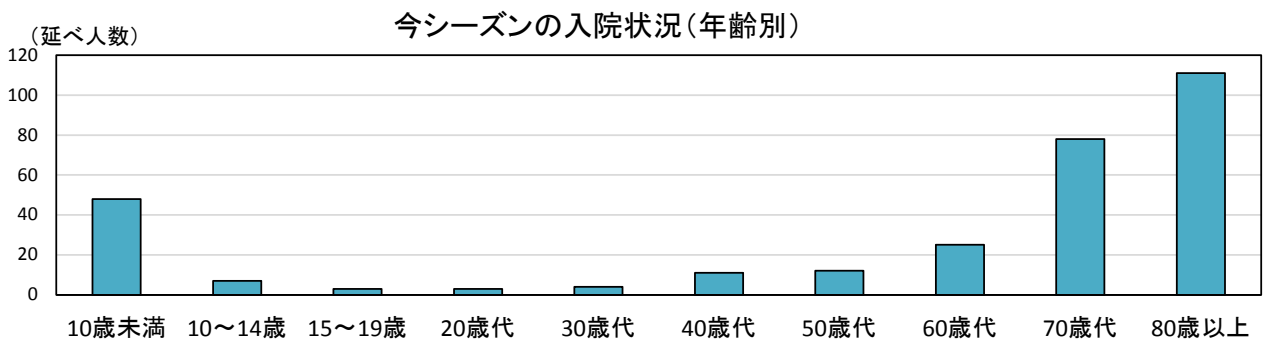
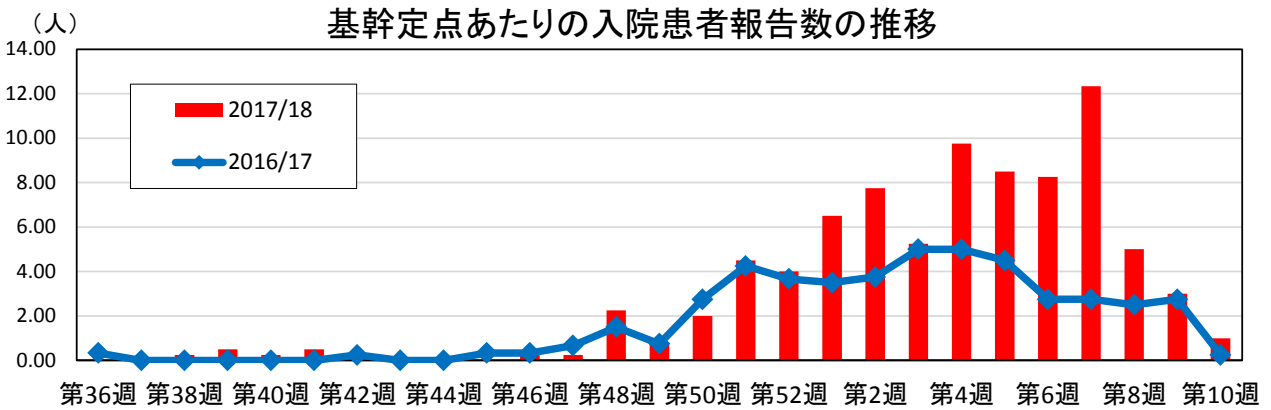
学級閉鎖等の施設の状況



**5 インフルエンザ脳症:**市内医療機関から全数報告される急性脳炎のうち、インフルエンザ脳症の報告は、第 10 週はありませんでした。今シーズンのインフルエンザ脳症の報告の累計は、第 5 週の 2 件(いずれも 10 歳未満で、A 型 1 件、B 型 1 件)でした。

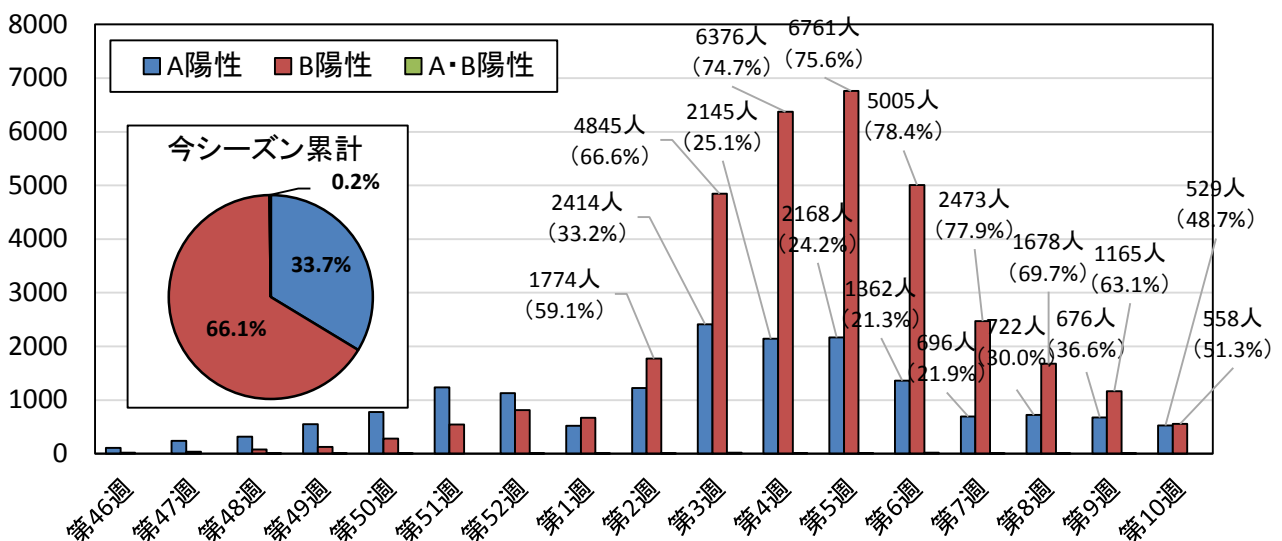
**6 入院サーベイランス:**市内基幹定点医療機関<sup>※3</sup>におけるインフルエンザ入院患者は、第10週は第8週、第9週より減少し、3人の報告があり、累計302人となりました。うち、10歳未満は48人、70歳代は78人、80歳以上は111人と、多くを占めています。

入院時の診療内容が把握されている事例で、ICU入室、人工呼吸器の使用、頭部CT検査、脳波検査等が実施された重症肺炎やインフルエンザ脳症が疑われる入院患者は、第10週では1人の報告がありました(インフルエンザ脳症の発生届はありませんでした)。



**7 迅速キット結果:**今シーズンの初めはA型が多く報告されてきましたが、第50週頃よりB型の割合が増え始め、第1週以降、B型が多く報告されています。第10週の迅速キットの結果では、A型48.7%、B型51.3%となり、第9週と比べてA型の割合が増加しています。B型の患者報告数が減少する一方で、A型の患者報告数が横ばいとなっている状況です。今シーズン累計は、A型33.7%、B型66.1%、A・B型ともに陽性0.2%となっています。

横浜市の患者定点医療機関における迅速診断用キットによる型別の報告数(人)



**8 市内病原体検出状況:**市内では病原体定点<sup>※6</sup>からAH1pdm(48株)、AH3(57株)、B(山形系統)(96株)が分離・検出されており、B(山形系統)が多くを占めています。AH1pdmは第6週以降は分離・検出されていませんが、AH3はシーズンを通じて一定数が分離・検出されています。全国の分離・検出も同様の傾向と考えられます<sup>※7</sup>。

B型ウイルスの流行が早期に始まっていることから、A型ウイルスとの再感染や重複感染にも注意が必要です<sup>※8</sup>。

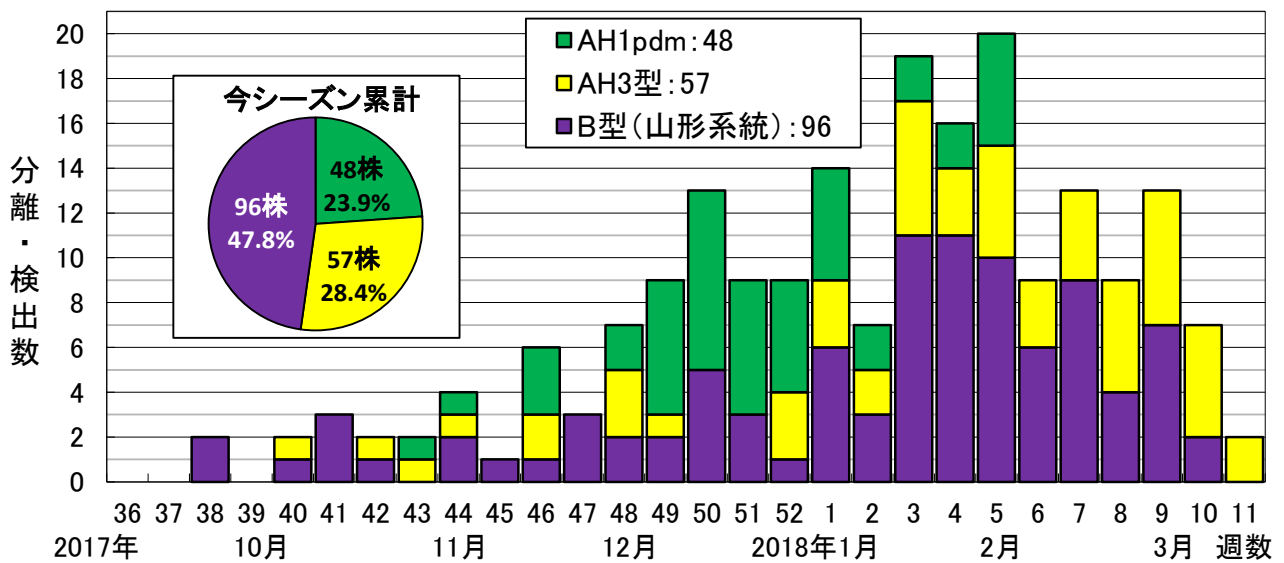
※6 病原体定点:採取した検体を衛生研究所に送付する医療機関で、市内に17か所あります。うち、インフルエンザについては12か所にて採取されています。

※7 週別インフルエンザウイルス分離・検出報告数(国立感染症研究所、2018年3月14日作成)

※8 2017/18シーズンの山形系統のB型インフルエンザ流行状況—横浜市

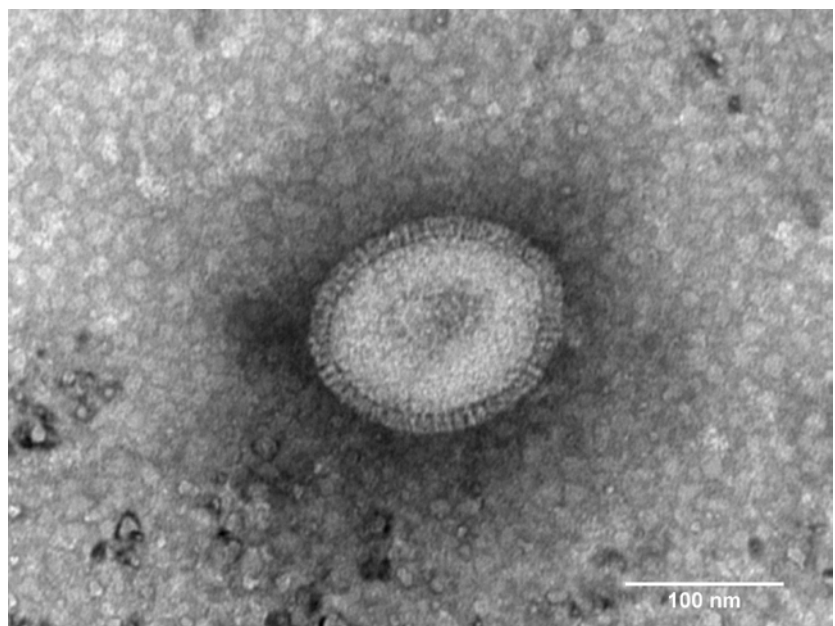
### 市内病原体定点からのインフルエンザウイルス分離・検出状況

(2018年3月14日現在)



インフルエンザウイルスの電子顕微鏡写真(6万倍)

B型(山形系統)



撮影:横浜市衛生研究所

9 分離株の抗原性解析:市内で分離された株(細胞培養した 251 株、3 月 9 日現在)のワクチン株との抗原性解析(HI 試験)を実施しました。ワクチン類似とされているのは 4 倍以内です。あくまでもウサギの血清を使っているため参考値ですが、AH3 は、37 株のうち 33 株が 8 倍以上で、AH1pdm(100 株)と B(山形系統)(114 株)は、すべて 4 倍以内となっています。

これは、AH1pdm および B(山形系統)の流行株は「国内ワクチン製造株に抗原性が類似していた」、AH3 の分離株の 9 割以上が「国内ワクチン製造株に対する抗血清との反応性低下が認められ、ワクチン抗原と流行株の抗原性相違が推定される」とする国立感染症研究所の解析<sup>※9</sup>と矛盾しないと考えられます。

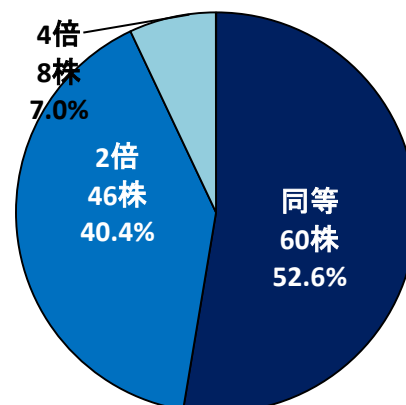
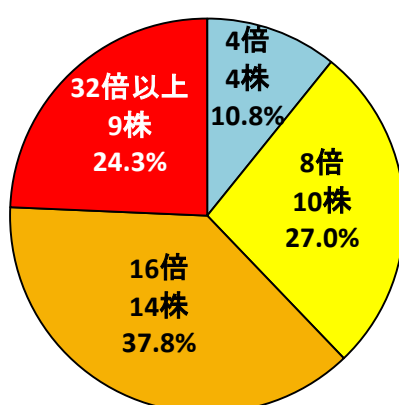
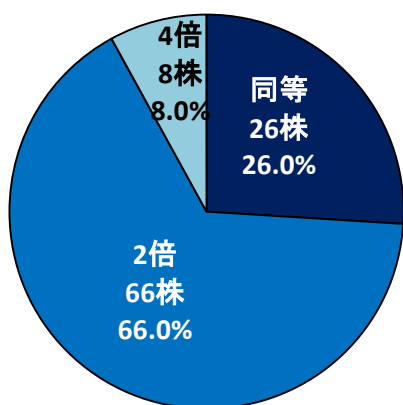
※9 [インフルエンザウイルス流行株抗原性解析と遺伝子系統樹 2018 年 3 月 12 日\(国立感染症研究所\)](#)

(参考値)市内で分離された株の抗原性解析

AH1pdm 抗原性解析(100 株)

AH3 抗原性解析(37 株)

B(山形系統)抗原性解析(114 株)



■ 同等 ■ 2倍 ■ 4倍 ■ 8倍 ■ 16倍 ■ 32倍以上

今シーズンのインフルエンザ流行情報は今号が最後です(再び報告数が大幅に増加した場合は発行します)。今後の流行状況は[横浜市感染症情報センターホームページ](#)に掲載している「最新の感染症発生状況(横浜市内)」の「週報」の「定点情報」をご参照ください。

※参考リンク

近隣自治体の流行状況

○[神奈川県](#)

○[川崎市](#)

○[東京都](#)

全国の流行状況

○[国立感染症研究所](#)